

深切～しんせつ～

奈良県 桜井西中学校 1年 田中 心温

「おはよう。」

「昨日はしんどかったんか？」

毎朝、交差点でひびく大きな声。登校する小学生や、僕たち中学生に声をかけてくれる黄色いベストを着たおじさん。僕のおじいちゃんです。暑い日も、雨の日も雪の日も毎日、同じ時間に交差点に向かうおじいちゃんは、今年で18年目になるそうです。

僕が小学校に入学したばかりのころ、学校へ行くことをいやがっていた僕を、交差点で待っていてくれて、そこからいっしょに学校まで歩いていってくれたこともありました。鼻血をよく出す僕に毎朝、ティッシュを一袋わたしてくれたり、寒い冬の朝には、こっそりカイロを手元にぎらせてくれたり、交差点での思い出はたくさんあります。

交差点で安全に横断歩道をわたれるように立っているおじいちゃんは、みんなのことをよく知っていて、分団にいない子がいると、

「今日は〇〇君、休みか？」

と、すぐにわかります。僕だけではなく、みんなのことを守るおじいちゃんは、すごいなあと思っていました。

そんな僕も中学生になり、部活や野球の練習で朝起きることが苦手になり、ねむい顔で登校することが多くなりました。おじいちゃんは、いつもと変わらず大きな声を出しています。

「なんか、恥ずかしいやん。」

「みんな迷惑してるやんか。」

僕の「おはよう」の声も、小さくなっていきました。そして、僕は通学路を変えました。

ある日、おじいちゃんの家の前に一本の傘が立てかけてありました。そこには手紙がついていました。

『大雨の中、傘をかしていただきありがとうございました。すごく助かりました。びしょぬれにさせてしまってすみませんでした。そして、いつもありがとうございます』

と書いてありました。

僕は、その手紙を見て悲しくなりました。おじいちゃんのことを恥ずかしいと思ったことを、とても後悔しました。

おじいちゃんは今まで17年間、毎朝、地域の子どもたちが安全に登校できるようにがんばってきたのです。そしてこれからも、切実な願いで僕たちを守ってくれることと思います。

子どもたちに対して思い入れが強いおじいちゃんは、「親切」というよりも「^{しんせつ}深切」であると、僕は思っています。